

## 審査結果報告書

平成 29 年 2 月 9 日

主 査 氏 名

村 雲 芳 樹



副 査 氏 名

小 下 拓



副 査 氏 名

恩 田 貴 志



副 査 氏 名

佐 藤 之 俊



1. 申請者氏名 : DM13036 南谷菜穂子

2. 論文テーマ :

Prognostic significance of promoter DNA hypermethylation of cysteine dioxygenase 1 (CD01) gene in primary breast cancer

(原発性乳癌における CD01 遺伝子メチル化と臨床病理学的因子の検討)

3. 論文審査結果 :

乳癌組織の臨床献体を用いて CD01 遺伝子のプロモーター領域のメチル化を検出し、その定量化したメチル化値が乳癌の予後に関連があることを明らかにした研究である。発表会にて以下の点について討論した。

1. CD01 遺伝子のメチル化をどのように臨床応用するのか。
2. CD01 の遺伝子・蛋白発現についてはどうか。
3. CD01 遺伝子のメチル化による腫瘍増殖・進展への影響の機序について。
4. 研究に用いたメチル化値は何を表しているのか。
5. 本研究のメチル化測定方法の特異性について。
6. DNA 抽出に用いた乳癌組織の部位は結果に影響しないかどうか。
7. CD01 に着目した理由は。
8. メチル化が認められなかった細胞株での CD01 低発現の機序は。

本研究は、治療に抵抗性で予後不良なトリプルネガティブ乳癌症例中でも、CD01 がさらに予後に関連する因子であることを明らかにし、予後因子としての有用性を提唱した有意義な研究である。研究内容の理解も深く、将来的な研究の方向性もはっきりしており、博士の学位にふさわしい研究であるとの審査結果に至った。